



Title	平成29年度北海道大学教育ワークショップの取り組み
Author(s)	山本, 堅一; 細川, 敏幸; 山田, 邦雅; 三上, 直之
Citation	高等教育ジャーナル : 高等教育と生涯学習 = Journal of Higher Education and Lifelong Learning, 25: 85-91
Issue Date	2018-05
DOI	10.14943/J.HighEdu.25.85
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/70486">http://hdl.handle.net/2115/70486</a>
Type	bulletin (article)
File Information	j25_10_HighEdu.25.85.pdf



[Instructions for use](#)

## A Report on the 2017 Hokkaido University Workshop on Education

Kenichi Yamamoto,<sup>1)\*</sup> Toshiyuki Hosokawa,<sup>2)</sup> Kunimasa Yamada<sup>2)</sup> and Naoyuki Mikami<sup>2)</sup>

1) Center for Teaching and Learning, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

2) Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

## 平成 29 年度北海道大学教育ワークショップの取り組み

山本 堅一<sup>1)\*\*</sup>, 細川 敏幸<sup>2)</sup>, 山田 邦雅<sup>2)</sup>, 三上 直之<sup>2)</sup>

1) 北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター

2) 北海道大学高等教育推進機構

*Abstract* — Hokkaido University began holding an annual two-day workshop on education for the faculty members in 1998. Since 2007, this workshop has been implemented twice a year, and its target participants have been young faculty members. Since last year, we have held three separate workshops. The purpose of this report is to explain what was done in the 2017 workshops, and to explore the challenges that remain to improve the workshops.

The first workshop in June had 15 participants from Hokkaido University and 2 participants from other institutes of higher education, the second one in September had 16 participants from Hokkaido University and 5 participants from other institutes of higher education, and the last one in November had 14 participants from Hokkaido University and 1 participant from another institute. This year's main theme was Active Learning. Each workshop mainly consisted of three sessions about planning of courses, including lectures and group discussions.

The main contents of this report are an overview of the three workshops and the results of questionnaires collected after each workshop.

(Accepted on 24 February, 2018)

\*) Correspondence: Center for Teaching and learning, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan

E-mail: yamamotouc@high.hokudai.ac.jp

\*\*\*) 連絡先：060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター

## 1. 北海道大学教育ワークショップの目的

北海道大学では、1998年以來、新任教員研修の一環として全部局教員を対象とした「北海道大学教育ワークショップ」という研修を行っている。この研修は、全学教育科目の授業デザインをグループ活動によって行うことで、授業の設計方法とシラバスの書き方について身につけることが主な目的であった。

本ワークショップは、2007年度以降それまでの年1回から年2回の開催となり、一人でも多くの新任教員（北大に着任後5年以内の教員）が研修に参加できるようにされてきた。これまでこの研修の企画運営を担ってきたのは高等教育推進機構の研究部門であったが、2015年4月に高等教育推進機構に設置された高等教育研修センターに実施主体を移し、2015年度からは年3回実施することとなった。2017年度も引き続き3回実施し、昨年度同様2回は学外での宿泊型、1回は学内での通い型とした。

2017年度のテーマは「アクティブラーニング型授業の設計」から「アクティブラーニング型授業の実践」と変更した。変更の理由は、ワークショップの実施形態の大きな転換に関係している。最初に説明した通り、これまでにはグループで一つのシラバスを作成するグループ活動が主体であった。しかし、今年度からは参加者が自身の担当授業シラバスをブラッシュアップし、翌日はブラッシュアップしたシラバスに基づき、初回授業におけるオリエンテーションを想定した15分の模擬授業を行うことにしたのである。これまで同様、授業の設計方法とシラバスの書き方を見つけると同時に、授業のプレゼンテーションについて身につけることも目的としたのである。

## 2. 日程とプログラム

2017年度に開催した本ワークショップの日程は、第32回が6月23、24日、第33回が9月14、15日、第34回が11月17、18日であった<sup>1)</sup>。プログラムは3回とも時間配分が少しずつ異なるもののほぼ同一

であり、以下に第32回のプログラムを示す。

### 6月23日（金）

8:30	受付開始（高等教育推進機構 情報教育館 3F スタジオ型中講義室）
8:45	開会・挨拶
9:00	バス出発【オリエンテーション（FDの意義、自己紹介）】
10:00	北広島クラッセホテル到着
10:10	オリエンテーション
10:50	レクチャー1「授業の目的・目標の設定」
11:20	ブラッシュアップ1「授業の目的・目標」
11:35	休憩
11:45	グループ共有1「授業の目的・目標」
12:15	全体共有1
12:30	昼食休憩
13:30	レクチャー2「評価方法の設定」
13:50	ブラッシュアップ2「成績評価」
14:15	グループ共有2「成績評価」
14:45	全体共有2
15:00	休憩
15:20	レクチャー3「授業計画の設定」
15:50	ブラッシュアップ「授業計画」
16:20	グループ共有3「授業計画」
16:50	休憩
17:00	全体共有3
17:15	まとめとふり取り
18:15	夕食、懇親会

### 6月24日（土）

6:30～	各自朝食
8:30	各自最終確認
9:00	模擬授業1
10:15	休憩
10:30	模擬授業2
12:00	講評
12:20	修了証書授与式
12:40	バス出発
13:30	札幌駅到着、解散

シラバスのブラッシュアップについては、授業設計において重要な「目標・評価・計画」の3箇所についてのみ行い、それぞれレクチャーと個人作業そしてグループ共有と全体共有を一つのセッションと

して構成している。昨年度までは二日間かけてグループでシラバスを一から作成していたが、今年度から個々人のシラバスをブラッシュアップしながら進めていく方針に変えたため、2日目に模擬授業が入れられるようになった。

模擬授業について、例えばプレゼンテーション技法の講義などはしていない。1日目の最後に、見本として世話人が自身の初回授業で使ったスライドを用いて、15分間のオリエンテーションとして、授業の目的・目標、評価方法と授業計画について説明した。参加者が行う模擬授業は、他の参加者が見ながらルーブリックを用いて評価を行い、併せてコメントも記入し、最後にまとめて本人に渡している。また、ビデオで撮影し本人宛に動画ファイルを送っている。他者からの評価やコメントを確認した後で、模擬授業のビデオを観ることによって、自分のプレゼンテーションを客観的にふり返ることができるので、プレゼンをブラッシュアップするのに効果的である。

このようなプログラムの変更にあって、他に二つのことを見直した。一つは夕食後の懇親会で、これまでは夕食とは別に希望者のみの懇親会を夜遅くまで実施していた。しかし、2日目に15分間の模擬授業を実施するためには、1日目終了後に練習が必要である。そのためにも夕食と懇親会を一つにして2時間限定で行い、懇親会後の時間を確保することとした。実際の模擬授業を見ていると、懇親会後に新たにスライドを作成した人や時間通りに終わるよう発表練習したことがわかる参加者も多い。もう一つは、宿泊部屋の変更で、これまでは複数人で一つの部屋に宿泊していたのを一人一部屋に変更した。理由は、模擬授業の練習を気兼ねなく行えるようにするためである。

なお、9月に行った通い型の研修では、懇親会を行う予定であったものの希望者が3名しかいなかったため、開催しなかった。

### 3. 参加者の属性

本ワークショップは新任教員研修と位置づけられているが、着任後5年以内としているため必ずしも

大学教員になって5年以内の人だけが参加するようにはなっていない。以下に各回の参加者属性を示す。

#### 年齢

	20代	30代	40代	50代	60代以上
第32回	0.0%	64.7%	29.4%	0.0%	5.9%
第33回	14.3%	42.9%	33.3%	0.0%	9.5%
第34回	6.7%	66.7%	20.0%	6.7%	0.0%

#### 性別

	男性	女性
第32回	76.5%	23.5%
第33回	76.2%	23.8%
第34回	80.0%	20.0%

#### 大学教員経験年数

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上
第32回	23.5%	29.4%	29.4%	17.6%
第33回	38.1%	33.3%	19.0%	9.5%
第34回	13.3%	53.3%	26.7%	6.7%

## 4. 参加者の感想

全プログラム終了後に行っているアンケートで、「本ワークショップの良かった点や改善すべき点など」を自由記述で尋ねており、以下のとおり回答があった。

#### 第32回

1. ことなる分野の先生たちとの交流や、模擬授業をもうけていただいて、大変勉強になりました。日程がすこしきついのでもしもっとゆっくりやっていたら、もっといいと思います。
2. ・シラバスの項目ごとに（レクチャー→改善）×3という構成はよかったです。・架空のシラバス作りではなく、自分のシラバス改善活動への転換は、大賛成です。架空～だったら、満足度や学びが大きく違っていたと思います。グループ内でも今年のやり方への賛辞がかなりありました。
3. ・自分自身のシラバスのブラッシュアップが出来たことが大変良かった。・他分野の先生方の

模擬授業が聞けて、大変刺激を受けることができた。

4. 自分のシラバスを改善するコースはとても有意義だと感じた。
5. ○シラバスのブラッシュアップは全教員に共通しているタスクなので研修に適していると思います。架空のシラバスをグループで作るよりも、良かったです。×自己紹介がバスの中だと顔が見えないので1人1分スライド1枚のライトニングトークで所属、研究を紹介したほうが良いと思います。△時間の都合で仕方がないのですが、全員分のシラバス改善をききたかったです。
6. 研究に追われて、シラバスを十分に検討する時間が無かった。本ワークショップにより、大幅に改善でき、とても良かった。自分のシラバスを用いるところが極めて良い試みだと感じた。
7. 模擬授業15分は少し長いと感じました。10分でも良いかと思います。
8. ・最後のプレゼンで他の参加者の研究について知ったり、授業、プレゼンの工夫を知ることができたのがとても良かった。スケジュール的に難しいかもしれないが、発表を聞いた後に参加者間で話せる時間があると、なおよかった。・発表15分は長いかも？10分程が良い？
9. グループ作業の必要性は？
10. ・反転学習的に1度ブラッシュアップしてから研修に来ることができればより効果的になると思いました。・発表準備に対する時間が少し足りないように思いました。
11. シラバスの作成を通じて授業を作り上げていく点をよく学ぶことができました。一方、実際の授業運営において特にアクティブラーニングの導入に際しての課題や他の教員の考え、悩みなどを共有する、あるいは解決する取組もあって良いのではないかと思います。ありがとうございました。
12. 自分のシラバスを修正できたので、このまま、次のシラバス修正のときに反映したいと思いました。他分野の先生と交流を持って、様々な情報交換ができたのが良かったです。発表内容を事前に教えていただくと、睡眠時間が少し増

えるかなと思いました。

13. ・個人個人のシラバスを直すという形式の変更は大変良かったと思います。後で役立つということで最初から最後までモチベーションを維持するのに大変役立ちました。みなさん研究でお忙しい中来ていますので利益も大事な要素かと思っています。・若手研究者同士の部局をまたいだ交流というのは大変貴重な機会であり日頃の仕事の悩みの相談もできました。・シラバスの各項目について理論と実践が大変コンパクトにまとめられていてそれ自体が自分の講義の参考になりました。・本当にありがとうございました。
14. ・当初は合宿にしないで…と思っていたが、結果的には（集中できたので）泊まりで良かった。・他分野のお話しが聴けたことは大変しげきになった。・1回目のシラバスのグループ共有の部分が、どういう形で行うべきか、少々不明であった。シラバスを直す時間がちょっと短かったかも。
15. 良かった点：シラバスの重要性について再認識することができました。他の分野の先生方と交流することができて勉強になりました。
16. グループワークと、個人の作業がある程度バランスされていて、やりやすかった。カゼ気味だったので、1人部屋で良かった。グループのチェンジがあっても良かったかも。

### 第33回

1. 他の先生のやり方が知れてよかったと思います。
2. 質問しやすい環境整備、わかったことは、教育準備にはそれなりの時間をかけなければ、ていねいな教え方とはならないこと。
3. 他領域、他分野の教員のシラバス、授業スタイルを見る事が出来て、非常に参考になりました。
4. ・事前アンケートはどのように使われたのでしょうか。時間をかけて回答したのに無駄だったと感じました。・結局ALがよくわからなかった。
5. 授業の動機付けについて今回のワークショップで見直すことができたのが大きかったです。今

回の内容をそのまま来年度のシラバスにつかえるのもありがたい。

6. AL 授業・シラバス作成についてはどのような講義か、対象学生によって相当変わると思います。ただ個人的には少人数のグループワーク主体の授業を考えていたため大変参考になりました。また授業の経験がなかったため研究者の方々の前で模擬授業をすることができ、また他の先生の授業を聞くことができたのが一番良かったです。
7. 宿泊でなくてよかったと思ったのが当初の本音ですが、宿泊がよかったと結果的には思いました。
8. もう少し時間が欲しい
9. 対象とする講義に統一性をもたせた方がよいと思った。専門なら専門、教養なら教養とか限定で
10. 最終的にはシラバス作りばかりになった。アクティブ・ラーニングの実践部分は別にまた教えてほしい
11. 他大学ではあるが、教員経験年数がそれなりに長いからこそ、シラバスを含めて自分の講義のやり方を見直す機会がこれまであまりなかった。今回の WS をきっかけにあらためて改善できれば、と思いました。
12. ・他の先生の 15 分授業は、自己改善に大変有意義でした。・自分の授業ビデオを楽しみにしております。
13. ・宿泊の形でも良かったかもしれません。通常の業務もしなくてはならないため。・全体的に大変役に立ちました。
14. ・同じグループの先生方のご意見がとても参考になりました。・なんとなく書いていたシラバスですがポイントがわかりました。
15. 自分のガイダンス発表に対して、他者からコメントをもらう機会は貴重だと思った。また、ビデオで自分の発表を撮影した様子をこの後にチェックするのも楽しみである。講師の方々の熱意も伝わってきて、授業準備に対する意欲が高まった。
16. ・シラバスの作成方法について、実践的な内容を学ぶことができました。・開始時間をもう少し

し遅くしてもらえると助かります。(とても勉強になりました。有り難うございました。)

17. ・「義務的」という意識は忘れて、集中して取り組むことができ、有意義でした。・宿泊型だどのような内容と満足感になるか、気になりました。
18. 架空ではなく自分のシラバスを対象にできて良かった。すぐ使えるから発表にあたりいろいろな分野の話がきけてとても面白く、改めて大学って楽しい所だと思いました。皆さん授業がお上手で、シラバスの書き方さえ直せばいいんだなと感心しました。
19. ・目的との関係で、講義・資料の内容、実践メニューいずれも有益で大変勉強になった。・自分の専門分野を素材とする研修であるからこそ、参加者が真剣かつ切実で、意欲的になれたと思う。
20. Maybe, the time to advice each professor could be longer

### 第 34 回

1. ホテル等とても良かったが、やる事が多く集中する必要もあったのでしんどかった。
2. ・自分自身の講義を見直すよい機会となった。・他の学科の人達と交流することで、色々なアイデアを得た。・今回ブラッシュアップした科目以外にも、適用する予定。・事前アンケートに対するフィードバックが無かったのは、少し残念だった。・参加者の「人選」は、もう少し厳密にやるべきだと感じた。(学科任せではなく)→例えば理系で講義をもつのは、准教授以上。
3. ・研修センターの先生方が、一方的に押しつけようとするのではなく、その一方で、教育に対する熱意も伝わってきた。こういった研修の印象が変わりました。・料理がおいしかった。
4. 2 日目のプレゼンについて案内がほしい。
5. ・コンシン会の時間がもう少し長いとよい。・はじめの自己紹介は 5 人全員でやってもよかったのでは?? ・発表への他の方からのフィードバックがもらえた点
6. ・アクティブ・ラーニングに対する誤解がとけ

た点、シラバス作成におけるポイントを知れた点は良かった。・ただ、それは本ワークショップの主な目的ではないと思うので仕方ないと思うが、アクティブ・ラーニングのメソッドのようなものをもっと知れたら良かった。・また、模擬授業の実施はとてもためになったが、一方で参加者との交流がやや限定されてしまったのは少し残念だった。

7. シラバスの書き方はたいへん勉強になりました。授業計画の設定はテーマや講義形式に左右されるので、なかなか特定のフォーマットにおとしこむのが難しいと思いました。30分の作業時間は少し長すぎて時間を持て余しました。全体としてはとても勉強になり、別の部局の方とも交流できて大いに刺激を受けました。ありがとうございました。
8. ・学生が授業のゴールを理解した上で回を重ねていく授業の作り方がわかった点で大変有意義だった。
9. シラバスの書き方はほとんど知らないことばかりだったので、非常に勉強になりました。今後の授業の準備をする際には今回学んだことを積極的に取り入れてシラバスの作成・講義を行おうと思いました。また、他の人の模擬授業を聞けるのもとても参考になりました。FDに関する研修会は今回初めて参加しましたが、また参加してみようと思いました。
10. Thank you for providing lecture slides in English—they were very helpful. The organisation of the day and a half was very thorough. The hotel food and onsen were much appreciated. In the last part of the schedule I would have liked to have some time to ask questions rather than only 「かんそう」。
11. ・ホテルで一泊することで今回のワークショップにより集中できたと思う。・講義も良かったが、テキストに他のポイントについての情報を記載されており、今後の参考にできる。
12. グループ間の共有と全体の共有、が有意義だった。他の方の意見、シラバス作成法は非常に参考になった。プレゼンのろく画は興味がある。もう少し参加者間の交流ができる時間をとってほしいかと思う。
13. 時間上に毎回の授業は時間ちょっと長くて、疲れる感じがあります。
14. ・シラバス作成の根本的な考え方を学ぶことが出来、とても有効でした。・自分の講義風景を見た事がないので、楽しみにしています。
15. ・これまでに参加したFDの中で最も印象的だった。・全教員が受けるべきWSである。せめて資料だけでも印刷版を配布してはどうか。若手も重要だが、ベテラン先生の考え方を改善することも必要？

## 5. まとめと今後の課題

これまで同様に本ワークショップへの参加者動機は「義務的に」が最も多く、毎回50%前後であった<sup>2)</sup>。年3回開催するようになって3年経過したが、宿泊型への参加者の方が通い型の参加者よりも比較的意欲が高い傾向にあると感じている。本ワークショップは各部局へ参加者募集の通知を行い、各部局長の推薦という形式で参加者が決まっている。どうしても参加しなければならないのなら、宿泊を伴わない通い型にしようという参加者もいるのかもしれない。個人作業が多くなったとはいうものの、参加者同士のフィードバックの時間もあるし、何より意欲の低い人がグループに混在していると当該グループに負の影響を与えてしまう。参加者の意欲を高めるのも研修担当者の役割ではある。しかしながら、自律した一人の大学教員（しかも所属長の推薦者として参加している）に対して、研修中にスマホばかり見ないようにとか、勝手なことをせず指示に従うようにと注意するのは憚られる。それでも意欲が高い参加者に申し訳ないので、今後は募集方法を検討していきたい。

自身のシラバスのブラッシュアップと模擬授業の実施という変更点については、参加者アンケートを見てもわかるように好評であった。分野によってはまだ授業を担当する必要がない新任教員もいるので、その場合は将来担当する可能性があり現在は別の先生が担当している授業シラバスをブラッシュアップしていただいた。授業担当教員の方がすぐに役立つという点でより有益ではあろうが、いずれ担

当することを考えると授業を持っていない教員にとっても十分に参加意義はあるので、今後もこの内容で継続していきたい。

また、本ワークショップは他部局・他分野の研究者と交流できるという大きな特徴があり、参加をきっかけに分野を超えた交流がその後も続く人もいるようだ。昨年度「他の参加者との交流は十分できた」というアンケート項目に対しては、順番に 4.19, 4.04, 3.94 (5 件法) だったが、今年度は 4.12, 3.80, 3.33 となり、懇親会時間を短縮した影響が見られる(今年度、通い型の 9 月は懇親会を開催していない)。懇親会は時間を少し延長するなどの検討が必要かもしれない。なお、グループ内交流については、昨年度の 4.62, 4.62, 4.31 から今年度は 4.29, 4.05, 4.13 となっている。グループ学習主体から個人学習主体へと変更しているのだから、当然の結果と言えようが、決して低い値ではないだろう。

「ワークショップは全体的に満足できた」というアンケート項目に対する回答は、第 32 回から順に 4.47, 4.19, 4.53 となり昨年度同様に高い結果となっている<sup>3)</sup>。内容を大きく変更してもこの結果だったのは、ひとまず安心である。毎回のようにアンケートで出てくる意見として、「宿泊する必要はない」「研修内容を予め教えて欲しい」などがある。参加者募集の際には、3 回分の日程と 9 月開催が通い型であることを明記しているし、研修プログラムも詳細に示し、内容もしっかり書いている。事務を通じて実施要項を受け取っているにもかかわらず読んでいないのか、そもそも受け取っていないのかはわからないが、改めて通知の仕方や参加決定後から

研修日までのやり取りを見直す必要があるだろう。

参加者数について、この三年間は減少傾向にある。年間 40 回程度、さまざまな研修機会を提供していることが関係しているのかもしれない。この新任教員研修の位置づけそのものについて、今後見直していく必要があると考えられる。

## 参考文献

山本堅一・細川敏幸・山田邦雅・亀野淳・三上直之 (2016), 「平成 28 年度北海道大学教育ワークショップの取り組み」, 『高等教育ジャーナル』 24, 161-166

## 注

- 1) 参加人数は、第 32 回から順に 17 名 (学内 12 部局から 15 名, 2 他大学等から 2 名), 21 名 (学内 13 部局から 16 名, 4 他大学から 5 名), 15 名 (学内 12 部局から 14 名, 1 他大学から 1 名) となった。
- 2) 参加者への事前アンケート結果によると、第 32 回から順に 47%, 52%, 53% が「義務的に」と答えており、「自分から進んで」参加したと答えているのは 6%, 5%, 20%, 「他人に勧められて」と答えたのは 47%, 38%, 27% であった。
- 3) 昨年度は第 32 回から順に 4.57, 4.38, 4.19 であった。